

令和5年度 第3回海老名市下水道運営審議会 会議録

日 時 令和6年2月22日（木）14時00分～15時10分
場 所 議員全員協議会
出席委員 9名
事務局出席者 理事兼まちづくり部長
理事（都市・建設担当）
まちづくり部次長（都市担当）
まちづくり部次長（建設担当）
まちづくり部 参事（下水道会計担当）
下水道課長
下水道課管路施設担当課長
下水道課主幹兼業務係長
管路施設係長
経営係長
管路施設係主任主事
経営係主任主事
経営係主任主事
傍 聴 者 なし

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題

（1）海老名市公共下水道事業経営戦略（案）について

会 長： それでは、議題に入ります。議題1「海老名市公共下水道事業経営戦略（案）について」、事務局より説明をお願いします。

事 務 局： 【資料に基づき内容説明】

会 長： ご意見・質疑ある方はお願いします。

A 委 員： 管路施設の地震対策に係る工事を行うことにより、地震が発生したときにどのようなメリットが考えられるのでしょうか。
例えば、災害時に点検をしなくても下水道が使えるのでしょうか。

事 務 局： 現在行っている耐震化の工事は、地震の際にマンホールと管きよや管きよどうしがずれたり外れたりするのを防ぎ、水の流れを確保するため、地震に対応できるような施設にしていく工事です。神奈川県指定の緊急輸送道路への対策を優先しています。

なお、耐震化の工事を行っても災害時に点検は必要です。

A 委員： 緊急輸送道路への耐震化の工事は、この 10 年間の計画期間の間に全部終わる見込みなのでしょうか。

事務局： 下水道管は地面の中にあり、管きよとそれを点検するマンホールで構成されています。海老名市も相当数の延長数と相当数のマンホールがあります。その中で、例えば、液状化現象などによってマンホールが道路の上に突き出てしまった光景もご覧になった方もいると思いますが、管の継ぎ目が外れてしまって流れていかないところが出てきてしまいます。本日の議題となっているのは、分野別の計画の中の「海老名市公共下水道事業経営戦略」の部分ですが、その他にも整備に関する内容の中に「海老名市公共下水道総合地震対策計画」という計画を設けていまして、この計画期間内に優先順位をつけて耐震化の工事を行っている状況です。

事務局： 耐震化に関する工事期間は、平成 26 年度から令和 13 年度までに完了させていく目標を立てています。対象箇所は 338 箇所、令和 4 年度末時点で約 150 箇所の耐震化を完了しており、約 50% の対策状況となっています。

A 委員： 海老名市でも地震の発生が危惧される中で、重要な事業だと思っています。もう少し経営戦略の中でもアピールしても良いのではないかと思います。質問させていただきました。

財源の中には企業債も含まれていると思いますが、その起債額は償還額を超えない額となっていますが、起債額を抑えることにより耐震化の工事がスピードダウンしてしまうおそれがないか心配です。

また、海老名市の使用料は県内他市と比べたときに 3 番目に低い水準となっていますが、安ければ良いというわけではないと思います。もう少し他市に金額を合わせてでも、やるべきことはやったほうが良いと思います。使用料の改定は今回の計画では見込んでいないと言い切ってしまうのでしょうか。

事務局： 今回の経営目標にも記載させていただいていますが、財政上の収支均衡を図るために、やるべき事業を遅らせるようなことは考えておりません。職員数には限りもありますが、できる最善の範囲で事業を行った場合でも、現時点では使用料の改定をしなくても経営していくことができると考えております。しかし、計画期間内において、経営目標で掲げた経営指標等の数値が目標を大幅に下回った場合や、想定外の社会情勢の変化があった場合は、使用料水準の検証を行います。

会長： 私も A 委員の意見について同感します。令和 4 年度に改定したばかりですが、ある程度負担がかかっても、質の高いサービスを受けるという考え方も

大事だと思います。

事務局： 今回の経営戦略の作成にあたって、様々な計画に基づく事務・事業についての進捗を遅らせるような作りはしていません。計画をきちんと遂行する上で、さらに黒字経営を保つために計算をしたところ、今回は料金改定には至らずにいけるというような内容です。ただ、この計画を作っている最中に起きた、能登半島地震ですので、委員のご意見や今後控えているパブリックコメントをよく検討して、策定をしていきたいと考えています。

B 委員： 「デジタル技術による業務の効率化」とありますが、AIを使った技術などあるのでしょうか。デジタル化が進んでいる中、お金をかけずに効率的な方法があるなら教えていただきたいです。

事務局： AIを活用した施設の維持管理などを行っている自治体もあります。海老名市はまだそういった技術を取り入れていませんので、今後研究をしていきたいと考えています。従いまして、このデジタル化に関する費用は今回の経営戦略には反映はされてない状況ですので、その辺が明らかになってきた段階で費用を含めて見通しが立てれば、計画の中で反映していく可能性があります。

また、海老名市では、下水道台帳のデジタル化を行っています。下水道課窓口のほか、市のホームページでも閲覧可能となっています。

会長： もし機会があれば、「海老名市公共下水道総合地震対策計画」の内容について説明していただけると全体が見えてくるかと思います。

(2) 海老名市雨水管理総合計画（案）について

会長： 次に議題2「海老名市雨水管理総合計画（案）について」を、事務局より説明をお願いします。

事務局： 【資料2-1、資料2-2、資料2-3に基づき内容説明】

C 委員： 雨水による被害だけで比較せずに、下水道課の事業全体を見たときに優先すべき事業を優先的に実施して行ってほしいと思う。雨水に関する事業より、もっと他に優先すべき事業があるのではないのでしょうか。

事務局： 下水道の総合計画の中には分野別の計画がいくつかあります。各計画に則って事業を実施しており、その時に全体を見て、比べることも大事かと思えます。例えば、地震に関する事業だけ実施して、雨水に関する事業が滞るようなことがないように、それぞれの事業に注力していかなければならないと思います。

C 委員： 私は、ひとつひとつの計画を終わらせていく方法が良いと思います。

事務局： 下水道の様々な問題をいろいろご審議していただく中で、汚水管きよも伸ばしていかなければならない、作った管きよの老朽化対策もしなければいけない、地震が来たときに大丈夫なのか、大雨が降ったときにどうなのか、どれを優先するのか、なかなか決められるものでないと思います。市民の皆さんにとってどこを優先すべきか考えながらやってきています。その中でとりわけ、昭和 40 年代以降に大きく社会問題化されてきた公害問題があり、雨水管よりも汚水管を整備したこと優先したことより今海老名市の公共下水道の普及率は 96%を超えております。ただ 50 年前も前から敷設し始めているため老朽化対策もしなければなりません。このように、様々な問題に同じような形で計画を立てて進めているところですので、ご理解いただきたいと思います。

会長： C委員の意見でごもった部分もありますが、この場で審議できるもの
とできないものもありますので、ご理解いただきたいと思います。

やはり何を優先させるか考えていただくことは必要なことですので、いろいろなニーズを捉えながら事業を進めていただきたいと思います。

4 閉 会